

平成28年度 第2回大阪府立今宮高等学校 学校協議会 記録

日時：平成28年11月18日（金） 15:50～17:00

場所：今宮高等学校 校長室

協議会委員（敬称略）

吉村 和彦	芦屋大学教授 元今宮高校校長
竹村 弘文	大阪市立木津中学校校長
藤岡 靖夫	自彊会会長
鳥津 刈野	後援会会長
田中佐祐美	P T A会長
山本 英夫	戎橋筋商店街振興組合事務局長

1. 校長挨拶

・110周年記念式典について

- ・出席していただいた他の校長先生、卒業生の方からも非常に良かったという評価をいただいた。
- ・ダンス部の発表も良かったが、卒業生3人のパネルディスカッションが特に良かった。卒業生3人がそれぞれの道を自分の意見と意思をもって歩んでいることが伝わった。現役の生徒にも、もっと今回のような機会を増やす必要があると感じた。

・硬式野球部が春のセンバツ高校野球21世紀枠候補として大阪府の推薦校に

- ・大阪府高校野球連盟理事長、毎日新聞社の社会部長が記者とともに本校に決定通知書を持ってこられた。
- ・選考会については、満場一致で今宮高校に決定。ベスト8には、公立高校で今宮を含め3校が残ったが、ベスト8のチームの中で、「久しぶりにチーム一丸となって熱く取り組むチームを見た」という理由。野球部顧問の西口先生の指導も良く、バッティングは「とにかく振り切る」ように指導。その成果で外野の間を抜いたり外野の頭を抜くような打球が増えてきた。今宮高校の歴史に残るような出来事。

・9月22日に実施したスポーツフェスタ（中学生のクラブ体験）について

府下いろいろな中学から参加。野球部に参加した中学生は「この仲間とやれるから頑張ってる今宮に行きたい」ということで、中学生に対しても進路の目標になっている。今年は1年生は15～18人が入部し、1年生から活躍している生徒もいる。

2. 協議会委員および事務局員の紹介

3. 事務局からの報告

①保護者からの意見・・・特になし

②第1回授業アンケートの報告について

年間2回、授業についてアンケートを実施。第1回は7月に実施

傾向 ●同一年度において、学年毎で比較すると「学年が上がれば評価も高くなる」

●座学と実技教科を比較すると、実技教科の方が評価は高い

●特に、生徒取組①（必要な予習復習ができています）よりも、生徒取組②（授業中の取組）の方が高い。
自宅学習の定着が課題。

2回目のアンケートの実施は12月に実施。1回目と2回目の比較を報告予定

③今年度の授業公開について

授業に対する取り組みとして、校内における授業公開に実施（11月15日から11月21日）

11月28日に教員ミーティング（振り返り）を校内で予定している。

④高校入試（学力検査）について

入試日程は昨年とほぼ同じ。

学力検査問題は学校毎に決定。Aは基本、Bは標準、Cは発展

今宮高校は「国語C、数学C、英語C」から「国語C、数学B、英語C」に変更

今宮高校の学力検査と調査書の比率は、学力検査：調査書を7：3・・・昨年と比率の変更なし

・平成28年度入試は中学3年次のみの成績が調査書に反映

・平成29年度入試は2年次と3年次の成績が反映され点数化される（2年次：3年次が1：3の比率）

・平成30年度は中学校3年間の成績が調査書に反映され点数化される。

各学校におけるアドミッションポリシー（求める生徒像）・・・昨年と項目の変更なし

・自己申告書（作文）を添えて出願。

⑤学校経営計画について・・・今年度の取り組みと評価

- ・今宮ブランド意識を高揚させる取り組み（今高生としての意識を高める取り組み）

始業式等で校歌を歌う機会を増やした。生徒自治会の生徒が中心となって校歌DVDを作成

自治会・部活動におけるリーダー層の意識高揚

部活動での「ヒーローを作ろう」・・・勉強もクラブも頑張る生徒を増やす。

クラブリーダー会議・・・クラブの部長やマネージャーに悩みや失敗談などを共有

今宮高校の伝統行事の熟成

今高生の主張・・・クラス内での発表会で2名を選出。12名の中から最優秀賞を決める。

・進路指導システムの充実

進路指導マニュアルを整備中

センター試験への取り組みと進化

センター試験受験者数の維持・・・昨年より増加（137名→144名）。

3年生全体の模試の結果は昨年度より向上

・学力の定量把握の定着

スタディサポート学力リサーチの実施・・・年に2回実施。教科分析会2回実施

・ICT機器の充実

110周年記念事業の一環で、全24教室にプロジェクタを設置完了。

社会科教室・理科教室・芸術教室にもプロジェクタを設置。6割以上の教員が授業でICT機器を利用

・英語力の強化

2年生は英検全員受験。英検準2級以上の保持者増加へ。

ウィンターセミナーで外部講師を招いて英検対策講習を実施

3年生は67%が英検準2級以上の保持者。

すでに指定校推薦等に合格している3年生にも、さらに上級の英検受験を勧める取り組み

・生徒の学習習慣の定着

学習記録カードシステムの定着・・・1年生が7クラスに増えたが、学力上位層も増加。

・中学生の参加行事

今宮高校に入学してくる生徒の学力レベルが上がってきている。

オープンスクールなど、これまでに1650名の中学生が参加

⑥創立110周年記念事業報告

体育館の3連脚200台（600名分）

LL教室の更新・・・ICT機器の充実（アクティブラーニングのモデル教室として）

（プロジェクタ3台・AppleTV・操作用機器等、壁面スクリーン、キャスター付き生徒用椅子）

⑦平成29年度使用教科用図書の採択について

⑧その他・・・台湾国立台東女子高級中学校との姉妹提携締結の報告

4. 協議

・授業評価と取組内容の進捗状況について

・生徒の取組内容①（必要な予習復習ができていない）1年生2.66→2年生2.75→3年生3.21 というように1・2年生の数値が本校の課題を物語っている。どのような方法で改善すればよいか。

・「勉強しろ」だけでは改善はしない。部活の時間はどこまで部活の時間として許容すればいいのか。時間と勉強と部活動のバランスをどのようにすればよいか。勉強に対して、どのように1・2年生に火をつけるか。

・クラブ活動から自宅に帰ってくると、ヘトヘトでご飯を食べると寝てしまう。家に帰って勉強する体力が残っていない。体力的に無理があった。しかし、全国大会を目指すならそれくらい練習しないと仕方がない。

・クラブの部員の友人の中には、勉強の遅れを取り戻して良い成績の希望の進路に進んだ子もいた。本人がクラブ活動で「やりきった」ということで、後悔はしておらず、やりたいことができたということで満足はしている。

・ある程度、目標を持っている子ども達は部活と勉強の両立はできるが、個人差もあってなかなか全員が両立することは難しい。

・数年先が読み切れない現代社会は、なかなか生き残っていけない。その中で「総合学科の学び」は主体的に学び続けるという点で、非常に優れたシステムである。その学びをどう支援していくのか、仕組みをどうしていくかが課題。

・目標をもてばとことんやり切ってほしい。言って響く生徒と響かない生徒がいるが、いろいろな人との出会いで生徒が変わる。多様な学びの充実を望む。

・アドミッションポリシーについて

・「こころざし」という文言を入れればよいのでは。今宮高校を志望する中学生が「こころざし」とは何かを考えさせることが大切だと思う。

5. 次回（第3回）の予定

2月16日（木） 15:50～17:00

（2/10金・・・1年生英語暗唱大会・2年生英語スピーチコンテスト 大阪市中央公会堂で実施）